

## 午後 II 試験

全問に共通して、自らの体験に基づき設問に素直に答えている論述が多く、問題文に記載してあるプロセスや観点などを抜き出し、一般論と組み合わせただけの表面的な論述は少なかった。また、実施事項だけにとどまり、実施した理由や検討の経緯が読み取れない論述も少なかった。

問 1（業務からのニーズに応えるためのデータを活用した情報の提供について）では、営業マーケティングなどの一般的な分野から AI による業務判断など、幅広いテーマで論述されていた。本問では、どのようなデータ活用のニーズをどのように分析し、どのような情報を提供したか、提供に際しての課題にどのような工夫をして対応したかについての具体的な論述を期待した。多くの論述は具体性があり、実際にデータを活用した情報提供に携わった経験がうかがえた。一方で、情報提供のニーズではなく機能追加に関する論述、業務からのニーズではなくシステム開発の一環としての情報提供に関する論述、分析を伴わず求められた情報をそのまま提供しただけという論述も見受けられた。システムアーキテクトは、業務からの漠然としたニーズを分析し、それを具体化する能力が求められる。業務とシステムの両面からの視点が重要なことを理解してほしい。

問 2（業務ソフトウェアパッケージの導入について）では、業務ソフトウェアパッケージ（以下、パッケージという）の導入において発生する業務とパッケージ機能のギャップの解決策について、ギャップの内容、検討方針、解決策についての具体的な論述を期待した。多くの受験者は、ギャップの解決策を具体的に論述しており、実際の経験に基づいて論述していることがうかがわれた。一方で、検討方針がなく解決策だけの論述、その解決策で業務が円滑に遂行できるかが不明な論述など、業務への踏み込みが不足しているものも見受けられた。システムアーキテクトには、対象業務の遂行に最適な解決策を選択する能力が求められる。システムの知識だけでなく業務を理解することを心掛けてほしい。

問 3（組込みシステムの AI 利用、IoT 化などに伴うデータ量増加への対応について）では、組込みシステムにはそれぞれの制約がある中で、データ量の増加を伴う要求に対して、システムアーキテクトとしてどのように対応したか、システム設計の実践的能力がうかがえる論述を期待した。多くの論述は発生した問題への解決策とその選択理由をシステム設計の観点から具体的に論述していた。一方で、部分的な処理の対策内容の説明にとどまるなど、システム全体を俯瞰して解決策を検討する視点が乏しい論述も見受けられた。組込みシステムのシステムアーキテクトには、システム特有の制約を含めた特徴を把握し、仕様を達成する組込みシステムのアーキテクチャを構築する能力が求められる。IoT の進展と AI 活用の普及に際して、検討対象のシステムに関連した技術的視野を広くもち、適切なシステム設計を行うよう、心掛けてほしい。